



十二年度豫算表ヲ評スル「ワールド」新聞ノ説

大藏省  
翻譯課

4233



174  
1599

十一年度日本歳入出豫算表ヲ讀ム

一千八百七十九年七月一日ヨリ一千八百八十年六月三十日ニ  
亘ル年度ノ大藏卿豫算報告ハ始テ期日ニ先ツテ発布セラレタ  
リ蓋該報告ニ例言ヲ付レ以テ畧表中明細ナラサル箇ハ註解  
ニ供フルハ尚ホ前例ノ如レト雖モ本年ニ至テハ之ヲ前年ニ比  
スレハ一層詳悉ナルヲ覺フ別ニ又一千八百七十九年ヨリ一千  
八百七十六年ニ亘ル年度以降毎會計年ノ預算ヲ以テ本年度ノ  
預算ト對照スル所ノ一表ヲ掲ケ歳入出各項ノ増減ヲ示カンカ  
為メニセリ是ハ恐ラクハ餘計ノ勞ニ属センカ何トナレハ是等  
前年度ノ豫算ハ尽ク其確當ヲ得カルヲ証明シタレハ今ハ既ニ  
無用ノモノナレハナリ又一千八百七十七年ヨリ一千八百七十  
八年ニ亘ル一年度ノ精細ヲ尽セル豫算表ノ如キモ(仮令七同年



大正十一年四月贈  
大藏省郵寄

度ニ於テハ西南事変ノ為メニ五千万以上ノ不足ヲ生セシニモ  
セヨ年々ノ豫算表上ニ重テ之ヲ掲載スルハ必要ノ事トモ思ハ  
レス若又前年トノ比較ヲ示スヲ以テ必要ナリトモ一且ク決算  
ヲ以テレ豫算ヲ以テスヘカラサレナリ況ヤ一千八百七十五年  
ヨリ一千八百七十六年ニ亘ル年度ノ決算表ハ既ニ本年二月ニ  
於テ發布セラレ其豫算決算ノ間ニ大ニ差違アルヲ証明スルニ  
至リタレハ豫算ノ比較中ニ加フルノ非ニレテ決算比較ニ列セ  
シムルノ至当ナルニ於テオヤ

大藏卿ハ其強義表ヲ太政大臣ニ上ルニ際リ所見ヲ山東セテ書  
中ニ曰ク今ヤ世事稍ク安定ニ歸スト我輩モ亦之ヲ信ス然リ而  
ス稟申書ノ全面ヲ窺フニ其喜悦ナル前年ト同日ノ論ニアラサ  
ルナリ又大藏卿ハ尽力勉勵以テ各官署ノ支費ヲシテ稍定額ニ  
超ヘカラシムルコトヲ得タルモノ、如レ我輩ハ大藏卿ノ上陳中

憂慮ノ本年度ニ至リ此件ニ及ハサルヲ以テ具然ルニキヲ察ス  
ルナリ

前年度ニ於テ預算報告中ニ著キ新目ヲ現出シタリレハ貳拾八  
ヶ年ヲ以テ國債ヲ完償スルノ方策ナリレカ本年度ニ於テハ又  
更ニ二新科目ヲ現出シタリ全國地質測量ハ一併ニ救済補  
助金則是レナリ蓋シ地質測量ノ肇ハ本年度ニ至リ始テ日本ニ  
其緒ヲ開キ毎歳五万八千圓ヲ以テ之ニ充テ十二ヶ年ヲ以テ終  
業ヲ期スルノ目的ナリ夫レ全國ノ地質地形ヲ詳カニシ就中會  
礦ノ利源ヲ探テ漏レカシムルハ此業ノ起ルニアラサレハ能  
ハス然ルニ伊藤博文閣下ノ尽力ニ因テ此ノ要業ノ端緒ヲ開  
ニ至レリ是レ當ニ其創業者ノ偉功ヲ日本ノ青史ニ大書シテ万  
代永久ノ遺存スヘキノ美譽ト云ツヘシ又救荒儲蓄補助金ハ政  
府ヨリ毎歳地租百分ノ三即チ百二十万ヲ補助シ以テ農民ヲシ

ラ豊収ノ年ニハ餘利ヲ儲蓄シ預メ凶歲ノ非常ニ備ヘシムルノ  
貯藏銀行ヲ設ケタルノ姿ナリ但シ政府ニ於テ此項ヲ設クル  
ニ決定セラレタル所以ハ地租延納旧法ノ農民ヲシテ益々疲困  
窮迫ニ至ラシムルノ恐レアルヲ以テ之ヲ漸然本年度ニ廢止  
シニ由ルト云ヘリ然ルニ我輩思フニ此ノ方策ノ設アリテ農民  
ノ救荒儲蓄ヲ奨励セント欲スルモ實際其効ナク畢竟農人社會  
ハ此補助金ニ就キ被救ヲ仰クノ他アラザルベシ何トナレハ農  
民社會ヲ見渡スニ際テ此ノ貯蓄銀行ニ預込ムノ前餘裕アラハ  
先ツ目下逼迫ノ欠乏ヲ補フニ充テテ之ヲ欲スルノ情アレハナ  
リ況ヤ日本人ノ性質トシテ前途ノ預防ニ不注意ナルオヤ又況  
ヤ日本役人ノ信憑ヲ置キ難キオヤ然リト雖モ政府カ後來工業  
ヲ勸奨セント欲シテ利益ノ有無ニ拘ハラヌ毎歲巨額ノ財資ヲ  
冗費セシ所ヨリ照考シ來レハ歲入全額凡五分ノ四ヲ重擔ヲ負

ハル農民社會ノ凍餒究迫ヲ救恤セシカ爲メニ百二十万圓ヲ充  
テタルハ敢テ之ヲ夥シトスヘカラサルナリ  
大隈君又曰ク歲入全計ヲ以テ歲出全計ニ比スレハ其額相匹抗  
シテ過不足ナキト表中ニ揭示スルカ如シト夫レ政府ナルモノ  
ハ施政費用ニ充ルニ必要ナルノ他ニ餘利ノ歲収ヲ得ルモノ  
ス財資人民ノ手ニ存スルモノハ必ス殖利ノ用ヲナスト雖モ之ヲ  
大藏省ノ金庫内ニ貯藏スルモノ然ルヲ得ス故ニ斯ノ如キ詳  
明ナル平均ヲ示ス所ノ預算表ハ万国大藏卿等ノ最モ渴望スル  
所ナリト雖モ如何センヤ實際此事ノ行ハレ難キヲ而シテ此事ノ  
行ハレ難キハ他ナシ直税不直税ノ向ハス租税ヲ徵收スル所  
法律ハ年々同一ナレモ國費ノ多寡ハ歲ニヨリテ同レカラサル  
カ故ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ歲入出預算相匹抗シ塵ニマテ及  
ハルハ寧ロ精密ニ過キ其ノ信憑ヲ増スハサテ置キ却テ虚節ヲ

加一タリトノ愉快ナラサル思アラレハ果シテ斯ノ如キ精密ニ  
過クルノ平均ハ唯紙上ノ美觀ヲ貧リテ細工ヲ加ハタルモノニ  
外ナラサルニキノミ

本年度ノ歳入預算全計ハ五千五百六十九万一千三百七十九圓  
ニシテ之ヲ昨年度ノ全計ニ比スレハ貳百三十七万五千四百五  
十二圓ノ増加アリ是レ蓋シ歳入科目中過半ハ皆ナ本年度ノ収  
入昨年度ヨリ多キヲ期スルニ由レリ又本會計年度ノ初メヨリ  
綿布、絹布、青銅、銅、竹、陶器、漆器、紙、扇子、傘、ボノ輸出税ヲ廢セシニモ  
拘ハラス輸出全計ノ豫算ハ尙ホ好地位ヲ占メタリ且レ一千八  
百七十七年ヨリ一千八百七十八年ニ亘ル年度(一千八百七十八  
年ヨリ一千八百七十九年ニ亘ル年度ノ税関報告ハ未タ發布ニ  
ナラス)ニ於テ右數品ノ輸出合計ハ貳万八千九百十七圓ニシテ  
輸出税全額ハ九十三万九千五百六十四圓ナリレ而シテ昨年度ノ

預算ハ八十三万貳千八百八十二圓ナルモ本年度ニ於テハ八十九万  
五千百十三圓ノ収入ヲ期セリ地租(但シ琉球ノ貢納ヲ合算ス)鑛  
山税、酒類税、烟草税、証券印紙税、郵便税、牛馬賣買免許税、代官免許  
税、酒、皆ナ昨年度ヨリ収入ノ増加ヲ期シ賣葉免許税ハ昨年度ニ  
於テハ五万四千四百四十六圓ノ豫算ナリシモ本年度ノ豫算ハ  
七万九千百三十一圓ナリ車税、船税ノ増加ハ海陸運搬ノ業繁成  
ニ至リシ徵候ナリ會社税モ亦増加セリ又雜収入ハ昨年度ノ預  
算百五十二万九千九十八圓ナリシモ本年度ハ百六十四万七千  
七百四十五圓ノ預算ナリ思フニ此科目中ニハ昨年(一千八百七  
十八年)中政府ヨリ海外へ輸出セシ米代金一百萬圓ヲ加ハタル  
ナルハシ然リ而シテ本年度收入ノ昨年度ノ豫算ヨリ減スルモノ  
ハ銃獵税、海外旅券其他免許手数料、新証紙稅、度量衡稅、ボノ如  
キ小科目ニシテ其内大ナルモノハ北海道物產稅トス即チ昨年

度ノ豫算高ハ三十八万八千九百九十四リモ本年度ニ於テハ  
三十六万三千九百七十一圓ニ減シテ開拓使ノ支出定額ハ益  
増加ス然ルニ何故ニ物産税ノ減少スルヤ其ノ理由ニ就テハ  
報告中説明ヲ得カルナリ

爰ニ明瞭ヲ欠キ頗ル了解ニ苦ムモノハ作業純益金ノ項目ナリ  
何トナレハ此項目ノ名アルニモ拘ハラス一錢ダノ純益アルハ  
サテ置キ却テ此ノ事業ノ創設ニ向ヒ尚ホ巨多ノ負債アレハナ  
リ蓋シ該項目ノ純益金昨年度ニ於テハ百十八万三千三百二十三  
圓ノ豫算ナリシモ本年度ハ百十九万四千九百三十九圓ノ豫算  
ニシテ即チ佐渡鑛山外四ヶ所貳十一万八千九百六十圓赤羽根  
製作所及外三ヶ所三万貳千貳百六十五圓造幣局五万六千圓  
横須賀造船所外一ヶ所四千貳十八圓トセリ然ルニ又歳出ノ部  
ニ創業費ノ項目アリテ同ク右ノ諸事業ヲ掲ケ佐渡鑛山外五ヶ

所貳十三万貳千七百九十八圓赤羽根製作所外四ヶ所拾六万五  
千五百貳圓造幣局五万圓横須賀造船所七万二千二百圓トセリ之ヲ  
畧陳スレハ合計七十六万千貳百五十三圓ハ純益ノ豫算ニシテ  
此ノ純益ヲ生スル所ノ諸事業ノ創業費用ハ五十一万八千五百  
圓ト豫算スルモノナリ蓋シ佐渡鑛山外四ヶ所造幣局横須賀造船所  
ノ如キ其ノ創業旧時ニ係ル所ノ費用ヲ本年度ノ豫算表中ニ載  
スルハ誤謬ナルカ如シ因テ我輩ハ一旦ハ断然之ヲ反談ノ過リ  
ナラント疑フタリキ然レモ又熟シテ昨年度豫算表ノ例言ニ溯リ  
テ大藏卿ノ陳述セラル、所ヲ察スレハ反談ノ誤ナラント疑察  
スルハ其非ナルヲ如何センヤ即大藏卿ノ語ニ曰ク官工上ニ就  
テ公布スル所ノモノハ唯興業費純益金及ニ營業費補填ノ金額  
ノミナリト又作業上ノ収入預算ハ只純益ヲ生スル所ノ利源ヨ  
リスルノミニ限ルニ故ニ電信ノ収入ハ純益ナキヲ以テ之ヲ

除キ此部ニ計上セスト今ヤ本年度ノ作業純益ノ豫算ハ此ノ模  
範ニ習フテ毫モ違フ所ナク即チ歳入ノ部ニ純益ヲ載セ歳出ノ  
部ニ前陳教事業ノ創業費及維持資本ノ欠額補填ヲ括ケタリ然  
レモ到底真ノ果實ハ那辺ニアルヤ我輩ハ大藏卿ノ説明ノ助ケ  
アルニモ拘ハラヌ猶ホ頗ル了解ニ苦ム蓋シ必ス資本維持費作  
業費及ヒ収入勘定ボノ極メテ相混淆セルヤ言ヲ誤タカルナラ  
ン  
既ニ前陳セシ如ク歳出豫算ハ歳入預算ト相匹抗シテ其間ニ多  
寡ヲ生セヌ昨年度ノ歳出ニ越一テ本年ノ歳出ニ増加アル額ハ  
又昨年度ノ歳入ニ越一テ本年ノ歳入ニ増加アル額ト相平均セ  
リ然リ而シテ各官署ノ定額ハ際子増加シタリ則チ太政官ハ外客  
接待費ノ増加アルニ由リ内務省ハ全国地質測量費目ノ新設  
ルニ由リ陸軍省ハ更ニ參謀監軍兩本部ノ創置アルニ由リ司法

省ハ裁判官ノ増員ニ由リ開拓使ハ(収税額ノ減少ヨリ)判スレハ  
北海道産物衰凋ノ姿ヲ現ハスニモ拘ハラヌ)昨年度ノ豫算ハ百  
四十九万五千九百八十四圓ナリシモ本年度ハ百五十一万三千  
百七十四圓ノ預算ナルニ由ル而シテ雜出項目中増加アルハ前述  
セシ救荒儲蓄補助金ノ新設アルニ由リナリ  
又例ニ依リ社寺祿ハ昨年度ハ十四万六千六百六十二圓ノ預算ナ  
リシモ本年度ノ豫算ニ於テハ十二万五千二百八十一圓ニ減少  
シ神社補助金額ハ昨年度ニ於テハ十四万四千六百六十圓ナリシモ  
本年度ハ十三万五千圓ニ減少シタリ蓋シ日本ニ於テハ漸次人  
民ヲレテ其信仰禮拜ノ費用ヲ自給スルニ至ラレメント欲スル  
ノ目的ナルカ如シ又軍人恩給及ヒ負傷者療養諸費ヨリ凡三十  
万圓ノ減額アリト雖モ又賞勳年金ハ凡三万五千圓ヲ増加シ并  
ニ西南遠軍ノ輩一時資金五十万圓ノ目ヲ加ヘタリ但シ此ノ五

十万田ハ一千八百七十八年八月ニ暴發セル砲兵隊不平騒動ノ  
為メニ促進セラレタル遅延賞賜ノ金額ナルヤ必然ナリ果テ然  
ラハ之ヲ本年ノ豫算内ニ掲クルハ頗ル尙異ト謂ツスニ畢竟此  
金額ノ如キハ兵士ノ沸騰ヲ壓鎮シ不平ヲ和ラケンカ為メノ資  
給ナリト云フモ敢テ過當ニアラカルヘシ

創業費目中又支出ノ増加ヲ示シ昨年度ノ豫算ハ五十九万五千  
九百九十一田ナリシモ本年度ニ於テハ七十六万四千九百九十  
三田ノ豫算ナリ又前述セシ諸鑛山赤羽根其他ノ製作所造幣局  
及ヒ造船所ノ外此創業費項目中ニ京都神戸間鉄道三万三千三  
百田電信拾四万田下総牧羊場外三ヶ所七万二千七百九十三田  
ナルモノアリ又次ニ載スル所ノ項目ハ諸工業ト密接ノ關係ヲ  
有スルモノニテ則營業資本欠額補填是レナリ而メ此全計ハ二  
十四万四百九十田ニシテ内八万九百五十八田ハ下総牧羊場外

一ヶ所ニ屬シ拾万千三百三十五田ハ電信ニ屬ス是レ因テ觀ル  
ニ下総牧羊場外三ヶ所本年度ノ費用ハ十五万田以上ニ達シタ  
リ蓋シ我輩ヲ以テ之ヲ見レハ其成果ハ失望ノ外ニ出テカルカ  
如シ何トナレハ日本産ノ羊肉ノ未タ現今市場ニ於テ販賣ニ供  
スルヲ見サルハ勿論近キ内ニ此事ナルヘシトノ聞ヒナク又  
東京ニ新設アリレ羅沙製造所ニ用ユル所ノ羊毛ハ外国ノ輸入  
ニ係レハナリ尤モ此製造所ノ結構タル頗ル宏大ニシテ機械并  
ニ諸工匠ハ既ニ日耳曼國ヨリ取寄セラレタレモ未タ作業ニ着  
手セサルニ由リ其結果如何ヲ豫定センコト固トヨリ難ケレモ  
日本政府ノ工業ノ帝トシテ之モ亦固ク無報酬ノ事業トナラン  
ハ確トシテ疑フヘカラサルナリ何カ故ニ然ルヤ曰ク羊毛ヲ外  
國ノ市場ニ仰カカルヲ得サルノ製造所ニシテ況ヤ日本人ノ手  
ヲ以テス焉ノ能ク外國ノ製造所ト競争ヲ試ミルコトヲ得ンヤ但



レ右官工ニ属スル諸事業ニ就テ論スルニ当リ昨年八月ヲ以テ公然起業目的ノ為ニ募集セシ六分利付公債貳百五十万圓ノ出納ノ該豫算表中ニ掲載ナキ所以ニ起業公債ノ出納ハ其性質ニ於テ通常ノ歳入出ト異列アリ下ノ明文ニ由テ然ルヲ記スルヲ要ス然ルニ此ノ辞柄ハ素ヨリ無カナリト雖モ此公債ノ実ハ最初ヨリ毫モ起業目的ニ使用スルノ意ニアラスレテ流通ノ紙幣中一千万圓ヲ以テ有利公債ニ移シ幾分カ紙幣ノ額ヲ減セシト因リタルニ外ナラサルヲ証スルニ足ルナリ素ヨリ此ノ起業ノ如キハ其正当ナル毫モ間然スル所ナレ然レモ若シ暫ク此ノ実真ノ目的ヲ蔽テ人民ノ忠義心ヲ買フニ起業ノ名ヲ以テスルニアラスンハ果シテ其目的ヲ遂成スルヲ得シヤ否ヤハ我輩ノ未タ知ラカル所ナリ

國債 維新以来歳トシテ未タ回債ノ増加セサルハレ而シテ減

額ヲ見ルモノハ本年度ヲ以テ始メトス蓋シ減債ノ方案ヲ実行スルヲ得タリレモノハ時運ノ然ラシムル所ト雖モ抑モ又大藏卿ノ公明正大ヲ肯トシテ能ク力ヲ此ニ尽スノ効ニアラサルヲ得カルナリ大藏卿曰ク斯ク國債ノ減少ニ赴ク所以ノモノハ制度稍ヤ定著ニ歸シ國債ヲ増加セシタルカ如キ世事ノ大變革ヲ要スルモノナキニ至ルニ由テナリト然リ而シテ國債ノ減少セシ額ハ實ニ千二百万圓ニシテ即チ全額三億七千九百万圓ヨリ三億六千三百万圓ニ減シタリ但シ此減額ノ中七百五十万圓ハ紙幣消却ニ属ス故ニ今現ニ流通上ニアル所ノ紙幣ノ額ハ一億一千三百四拾二万七千九百九十二圓ナリ又毎歳二千一百万圓ヲ支出シ二十八ヶ年ヲ以テ回債ヲ完償スルノ方案ハ實際堅守セラレタルヲ知ルヘシ而シテ又大藏卿ノ説ヲ進ム所ヲ見ルニ準備ヲ運用シ時々ノ相庭ヲ以テ公債証券ヲ買収スルニ由リ或ハ

二十八ヶ年ヲ竣タスレテ國債完償ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ  
トスルカ如シ我輩ハ之ヲ信許スルヲ能ハサルナリ  
本年度ノ豫算表ハ二条ノ功績ヲ兼タリ一ハ時期ノ遅延ナキ  
又一ハ官工ニ属スル諸事業ノ錯雜不明ナル一項目ヲ除クノ外  
ハ總テ大藏卿カ孜々トシテ豫算ノ確定ナランヲ勉メタルノ  
効ニヨリ部類整齊ノ実アル明亮ノ報告ヲ公布スルヲ是レナリ  
然リ而メ我輩ハ誠心以テ大藏卿閣下ク竟ニ國家安寧世事平定  
ノ日ニ遭會シ其巨大ナル回債ヲ漸次償還スルノ緒ニ就クヲ  
得タルヲ賀ス又閣下ク井上汎沢二氏ノ一千八百七十三年ニ於  
テ絶望放棄セシ以降大藏ノ財務ヲ所スルニ不徳ノ耐忍カト著  
大ノ才量トヲ以テ今日ノ功ヲ奏スルニ至リシハ豈啻ニ我輩ノ  
満足ノミナラン乎

